

平成 23 年度 長野市産業振興審議会 第 1 回 観光振興専門分科会

日 時 平成 23 年 8 月 1 日（月） 午後 3 時 30 分～ 5 時 30 分
場 所 長野市役所 10 階 講堂
出席者 委員（14 名中 13 名出席、1 名欠席）
事務局 5 名、コンサル 2 名

【 質疑応答部分 議事録 】

（1）産業振興ビジョン後期振興計画の策定方針について

[委員]

産業振興ビジョンについては、今後、何回検討の場があるのか。

[市]

10 月頃に第 2 回観光振興専門分科会を開催し、その場でご審議いただく予定でございます。

（2）産業振興ビジョン後期振興計画 重点プラン(案)について

[委員]

「エムウェーブ有効利活用プラン」の良い名称を考えて欲しいとのことだが、そのプラン名を市民の方が目にする機会はあるのか。

他の重点プランでは、「もっと食べよう！ながのの食材」推進プランというものがあるが、これは誰が考えたものか。

[市]

このプラン名を市民の方が見る機会は、ほとんどないと思われます。なお、「もっと食べよう～！ながのの食材」推進プランは主管課で検討したものです。

[委員]

「地産地消」は食だけの話ではない。「食べよう」では内容的に偏ってしまうのではないか。エムウェーブのプラン名については、「次世代エネルギー」という言葉が入っていないので、わかりにくいのではないか。

プランの内容は、エムウェーブをエネルギーパーク化しようというものなのか。

[市]

現行のエムウェーブの機能を保持したままで、一部をテーマパークのような展示施設にするプラン(案)です。

[委員]

財政的な負担はどの程度伴うのか。この情報だけでは、どのように運営していくのか見えない部分がある。

[委員]

「利活用」という言い方は、マイナスからスタートするように聞こえるので「推進プラン」など、前向きに捉えられる名称にした方がいいのではないか。

[委員]

話題性を打ち出して観光集客に結びつける情報発信が必要ではないか。

[委員]

現時点では規模的なものがまだわからないが、どのような投資を行い、それによって20万人を集客することができるプランになるのか。

[市]

本事業は、国からの支援を前提としていますが、国の方針もまだ定まっておらず、具体的に何を作るのかは決まっていますが、国からの支援を視野に入れ、現時点で重点施策に掲げるものです。

[委員]

以前の会議でも議論したが、エムウェーブが観光資源として活用できるのか。震災後にはこれらの施設が乱立することも予想され、その中で、観光資源として成立するのか疑問である。他自治体の事例はどのようなものがあるのか。

[市]

次世代エネルギーパークには、長崎のハウステンボスのような大規模なものから、アトラクションが2種類しかないような小規模なものまで全国で33施設あります。

これらの多くが環境対策として運営しており、観光面でどのような影響を及ぼしているのかは、現段階では不明です。今後はこれらの施設を視察する中で検討していきたいと思います。

[委員]

前提として行政が主導して推進するものではなく、指定管理者が行うべきものではないのか。「次世代エネルギーパーク」の展示内容について、小粒のアトラクションが総花的に揃っているようなものでは絶対に成功しない。全館、すべてエコで埋め尽くされているなど、特徴を出す必要がある。こういった議論を、長野市と指定管理者でしっかりと調整しながら進める必要がある。

[委員]

「次世代エネルギーパーク」の推進には賛成です。行政と指定管理者の連携が重要になるが、利益を出さなければならない民間企業と行政が上手く連携できるのかが難しい。

[委員]

「観光」の部分に、もっとインパクトを持たせた方がいい。また、それを実行する主体も明確化する必要がある。

[委員]

このプランを実施するのであれば、まずはその価値をしっかりと検討し、意味のある事業として実行して欲しい。

[委員]

全国で33施設あっても、オリンピック施設で次世代エネルギーパークになっている施設はない。他にはないものとして打ち出してみてもどうか。

[委員]

規模的なことがまだわからないので何とも言えないが、個人的には城山の「長野市少年科学センター」を活用した方がよいのではないかと。エムウェーブを活用するのであれば、しっかりと観光客が呼べるものにして欲しい。

(3) 「新 1200 万人観光交流推進プラン（素案）」について

[委員]

大枠としては良いと思う。前計画のイヤーキャンペーンも効果があり、松代もかなり育ってきている。今後は前計画で高めたブランド力をどう活かしていくのかが課題である。

テーマ別キャンペーンで示されている大きなテーマも必要だが、今後、大河ドラマを呼び込む計画もあるので、大河ドラマと絡めたキャンペーンも検討して欲しい。

上田市は、まちなかに「六文銭」の旗が掲示されているが、松代にはない。もっと上田市との連携を強めて、真田をきっかけにした集客を図って欲しい。

長野市やその周辺には、童謡の作詞作曲家にゆかりが深い地域がある。広域的な連携の中で、このようなことを情報発信していけるのではないかと。

[委員]

朝・夜キャンペーンが、計画の後半に出てくることになっているが、門前研究会では「長野の朝」を大事にしようと、朝から食事ができるよう飲食店のオープン時間を早めるなど、さまざまなことに取り組んでいる。

また、夜に関しても、先日「盂蘭盆会（うらぼんえ）」があったが、ほとんどが地元の参加者で、県外客に向けてもっと PR することが必要である。

[委員]

あるべき姿、方向性としては良いと思う。具体的な部分がまだ見えないが、北陸新幹線延伸に伴う途中下車戦略としては、沿線自治体との連携が重要になってくる。

[市]

金沢市とは集客プロモーション協定を結んでおり、過去には連携して首都圏にポスター掲示を行うなどの活動を行ってきました。

また、北陸新幹線沿線自治体とは、協議会を組織しており、8/4に今後の動きについて協議する予定となっています。

国が整備を進めている「観光圏」についても協議が進んでおり計画策定に着手したところです。

[委員]

北陸新幹線の延伸については、今後、長野の観光が厳しくなるという話をよく聞くが、これは、北陸から観光客を呼び込むチャンスと捉えるべきである。待っているだけでなく、積極的な呼び込みが必要。

プランの目標が、前計画に引き続き 1200 万人となっているが、これは、まだまだその目標には足りないという認識なのか、それとも、再チャレンジということなのか。前プランと全く同じであることに違和感がある。

[市]

前プランでは 1200 万人というかなり高い目標を掲げました。前プランを策定した時点では、観光客数は 1000 万人を割っていましたが、計画期間を通じて 1000 万人を下回ったことはなく、十分に効果があったと考えております。

しかし、信州DCのように大々的におこなったものでも、県の目標は観光客数 10%増加に対し実際は 7.6%増ということで、観光客数を 20%も向上するのはかなり困難であります。

しかし、高く掲げた目標であるため、この目標を達成しようという気持ちで、新プランでも 1200 万人を目標とすることとしました。

[委員]

先日、被災地の伊達市の子ども達を招待したが、「牛に引かれて善光寺」という言葉を知っている子どもは誰もいなかった。「遠くとも一度は詣れ善光寺」などは、昔から全国的に知られている言葉ですが、ホームページなどでもっと発信していくことも大事である。

[委員]

「遠くとも～」はご詠歌の一つ、「遠くとも一度は詣れ善光寺 助け拾うぞ弥陀の誓願」という歌。

[委員]

観光客の交通手段の多くがJRよりも自家用車のため、自家用車への対応も重要である。

[委員]

1200 万人を集客する、その内訳を明確化すべきだと思う。どのイベントで何人、どの事業で何人という積み上げにより達成できるのではないか。また、具体性のある企画が必要であるので、具体案を示して欲しい。

[市]

具体案は、事務局で検討しています。ただし、実際はキャンペーンの前年に組織される実行委員会で詳細を詰めていくこととなります。

[委員]

総論としては良いと思うが、具体案が見えない部分がある。
テーマ別キャンペーンは、実施年度も記載されているが、今からやらなければならないこともあるのではないかと。金沢は駅近くに広大な駐車場があり、二次交通も充実している。よく、長野市は「善光寺があって、全く問題がない、羨ましい」と言われるが、受入体制では不十分な面もあり、今後、受入体制を充実していくことが大事である。

[市]

本日は、いろいろとご審議をいただきましてありがとうございました。
以上を持ちまして、平成 23 年度第 1 回観光振興専門分科会を閉じさせていただきたいと思っております。
お疲れ様でした。